自然観察ＮＯＷ

野幌森林公園自然情報
2004.9.16　No.6
北海道ボランティア・レンジャー協議会

スズメバチにご用心

例年８月～９月はスズメバチの巣で働きバチの数が最大になり、活動も活発になるので注意をしなければならない月です。今年は特に大量発生の兆しを見せています。大量発生の理由として、

①猛暑で昆虫が増え、スズメバチの餌となるハエやバッタが豊富なため大量繁殖となった。

②スズメバチの巣は幼虫を育てる部屋を重ねて大きくなるが、今年の夏は好天続きで巣がぬれて壊れることが少なかった。

などが挙げられています。

スズメバチとは膜翅目スズメバチ科に属するハチの総称で、アシナガバチ類、ドロバチ類、トックリバチ類、クロスズメバチ類などを含む大きな科です。北海道では３属１４種が分布していますがハチ類中最大のオオスズメバチがよく知られていますが、他にモンスズメバチ、キイロスズメバチ、クロスズメバチなど大は４㎝から小は１㎝位まで様々なです。

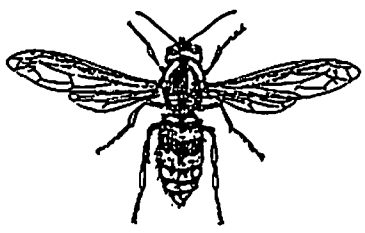
スズメバチに限らずハチの仲間の多くは集団での社会を形成しています。そして雌（女王バチ）、働きバチ、雄バチの区別があり、雄は主として秋に現れ交尾後まもなく死んでしまいます。雌（女王バチ）は交尾後、朽木の中や土中などで越冬し翌春新たに造巣し、働きバチを産み増やしそして巣を大きくしていきます。

スズメバチの仲間は、どの種も巣を守ろうとする強い本能をもっています。特に８月以降、翌年に巣をつくる「新女王バチ」がふ化してこれを守るため非常に過敏になります。ですから、巣に近付くものや振動を与えるものは敵とみなし集団で激しく襲ってきます。しかし、単独で餌を探して飛び回っているときは、まず人を襲うことはありませんので静かに見守りましょう。

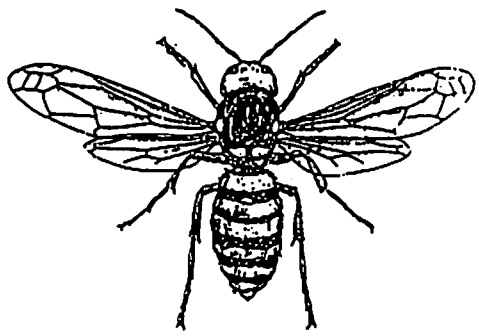
危険なときは、ハチが人の回りをうるさく飛び回っているときです。巣が近くにあって警戒している信号です。特に大型のスズメバチが、カチカチとキバをならす音をたてているときは攻撃予告です。

スズメバチに刺されない予防は、黒い服装より白っぽい服装をすること、アメやガムを歩きながら食べないこと、休憩時に果物やジュースをだしっぱなしにしないことです。香りのきつい化粧品にもスズメバチは寄ってきます。

クロスズメバチ



ケブカスズメバチ



オオスズメバチ

ノッポロガンクビソウ

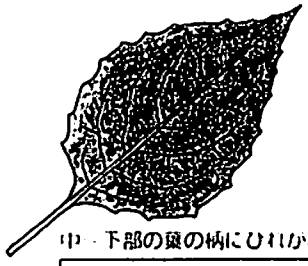
８月を過ぎると、道端にガンクビソウの仲間が地味な花を咲かせています。ガンクビソウ属は多年草もしくは１年草で直立してよく分枝します。頭花は雌花と両性花からなっています。この種は世界で約２０種、多くはアジアに分布しています。

属名 Carpesiumはcarpesion（ムギわら）にもとずき、頭花をかこむ総苞片が乾燥してつやがあり、ムギわらに似るとの意味があります。

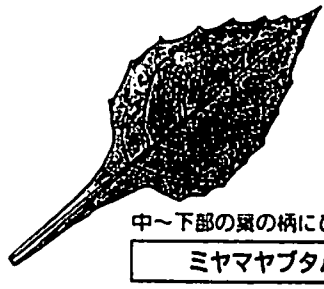
ガンクビソウとは頭花の形がキセルの雁首に似ていることからきています。キセルタバコを喫っている人が皆無のなかで、キセルの雁首といわれても想像できなくなってしまった昨今です。

「野幌森林公園　森のいざない」（公園事務所編）や「自然ガイド　野幌森林公園」（村野紀雄著）には、野幌森林公園内のガンクビソウ属は、ヤブタバコ、ノッポロガンクビソウ、ミヤマヤブタバコ、サジガンクビソウの４種が記載されていますが、サジガンクビソウの分布が明確ではありません。公園内で観察できるヤブタバコ、ノッポロガンクビソウ、ミヤマヤブタバコの違いを確かめてみましょう。

・ヤブタバコ（上部から放射状に枝を開き、さらに枝をわけその葉腋に頭花をつけます）
・ノッポロガンクビソウ（中～下部の葉には柄に翼がない。公園内でノッポロと名がつく種名はこのノッポロガンクビソウ１種だけです）
・ミヤマヤブタバコ（中～下部の葉には柄に翼がある。ガンクビヤブタバコとも言う）



中～下部の葉の柄にひれがない
ノッポロガンクビソウ



中～下部の葉の柄にひれがある
ミヤマヤブタバコ

参考（北海道夏～秋の花　絵とき検索表Ⅲの図による）

１０月の観察会は？

◆１０㎞エコハイキング

１０月３日（日）　１０：１５　野幌開拓記念館集合　昼食の用意

瑞穂の池コースと大沢のコースをつないだ約１０キロの道のエコハイキングです。秋の森を楽しみながら自然を満喫しましょう。

コースは、開拓記念館～開拓の村横～瑞穂の池～瑞穂連絡線～中央線～大沢口～エゾユズリハコース～四季美コース～桂コース～ふれい交流館～百年記念塔です。

色づきはじめた美しい木々の中で爽やかな汗をながしましょう。

◆秋の森の観察会

１０月１７日（日）　１０：００　大沢口ふれあい交流館集合　昼食の用意

紅葉の季節です。木々の葉も落ち始めます。冬鳥も渡ってくる季節です。雪の降る前の森の様子を観察しましょう。